



山梨県教育研究所  
公開研究会

2023/8/4

# 「ゆたかな学び」としての インクルーシブ教育

菊地 栄治

(早稲田大学)



## 本日の流れ…

1. なぜいま「ゆたかな学び」なのか？
2. 「ゆたかな学び」から遠ざかる教育の現実
3. インクルーシブ教育の内発的実践に学ぶ
4. まとめにかえてー大きな視点と足元からの試みー  
👉 シンポジウムで深めてまいりましょう…



# 1. なぜいま「ゆたかな学び」なのか？

## (1) 法規範論の次元

※教育基本法第1条（新・旧）をたどってみると…

旧教育基本法（1947年3月31日 法律第25号）

第1条（教育の目的）

教育は、**人格の完成**をめざし、**平和的な国家及び社会の形成者**として、**真理と正義を愛し、個人の価値をたつとび、勤労と責任を重んじ、自主的精神に充ちた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。**

新教育基本法（2006年12月22日 法律第120号）

第1条

教育は、**人格の完成**を目指し、**平和で民主的な国家及び社会の形成者**として**必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。**

🏠 約60年のときが隔たっても変わらない点は何か？むしろこれを、まさに社会の形成主体として関係者がどう読むか？…そのことが厳しく問われているのである。

# 1. なぜいま「ゆたかな学び」なのか？

近づいてみれば  
だれ一人まとも  
な人はいない

## (1) 法規範論の次元

二つの可能性 (2つのモデルについては次頁のスライドを参照)



「権力指向 (遠さ・強さ・垂直性=近代知) パラダイム」によると…

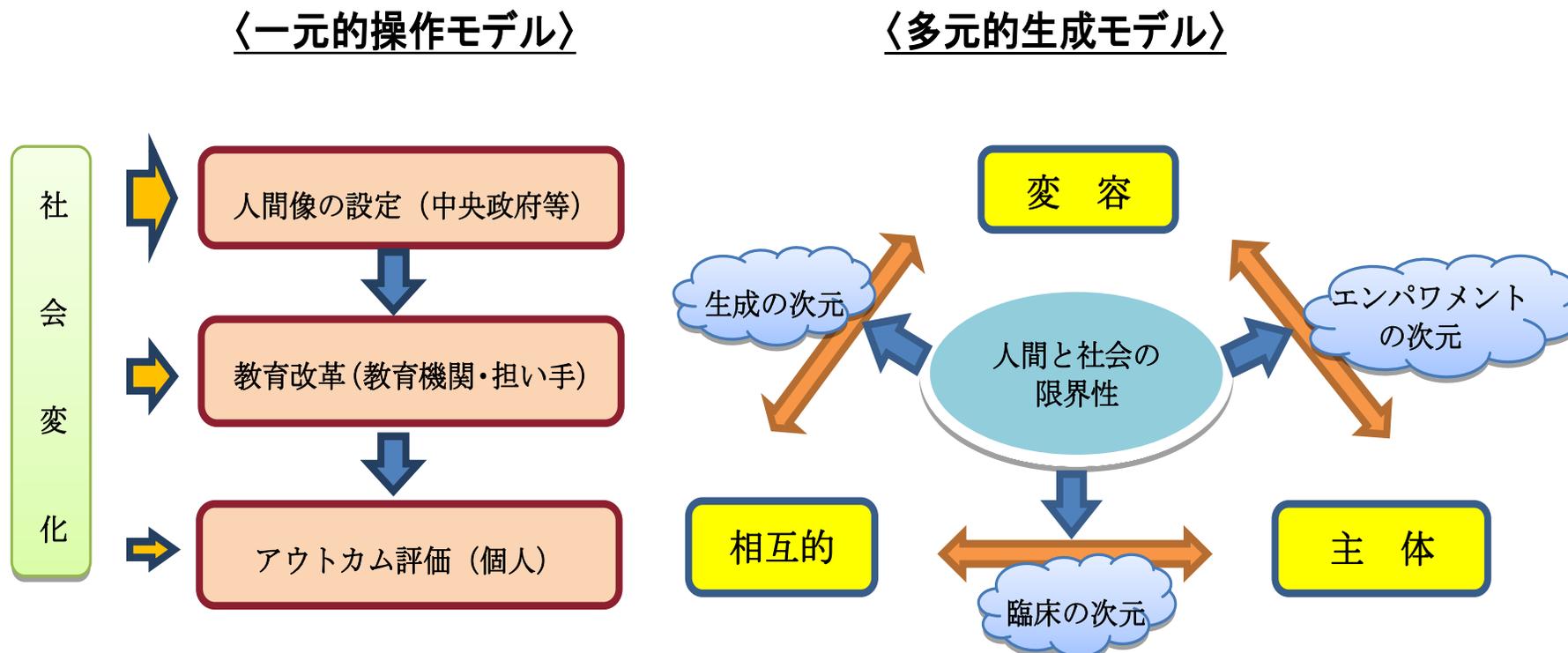
☞ **〈一元的操作モデル〉**にもとづき、「できること」や「強くなること」を最高価値として、権力によって一元的に定義されたゴールに向かって交換価値を生み出し、既存の社会を再生産することに役立つ「従順な身体」を育てるための学び。

「脱権力指向 (近さ・弱さ・関係性=臨床知) パラダイム」による読み方…

☞ **〈多元的生成モデル〉**にもとづき、「弱さ」や「できなさ」や「わからなさ」があらゆる人間の根本性質であることを前提とし (人間の限界性)、子どもの現実に近いところから臨床的に生成された意味を軸に、これまでの社会の「いたらなさ」を改めるために (社会の限界性) 互いに変わっていく「活動する主体」として育ち合っていく学び。

# 1. なぜいま「ゆたかな学び」なのか？

※ 「次の2つのどちらの道を選択するか？」という問題...



出所) 拙稿「高校教育のポリティクスー〈近代〉と向き合うもうひとつの物語ー」小玉重夫・志水宏吉編『学校のポリティクス』  
(講座教育 第6巻 変革への展望) 岩波書店、2016年、図1より。

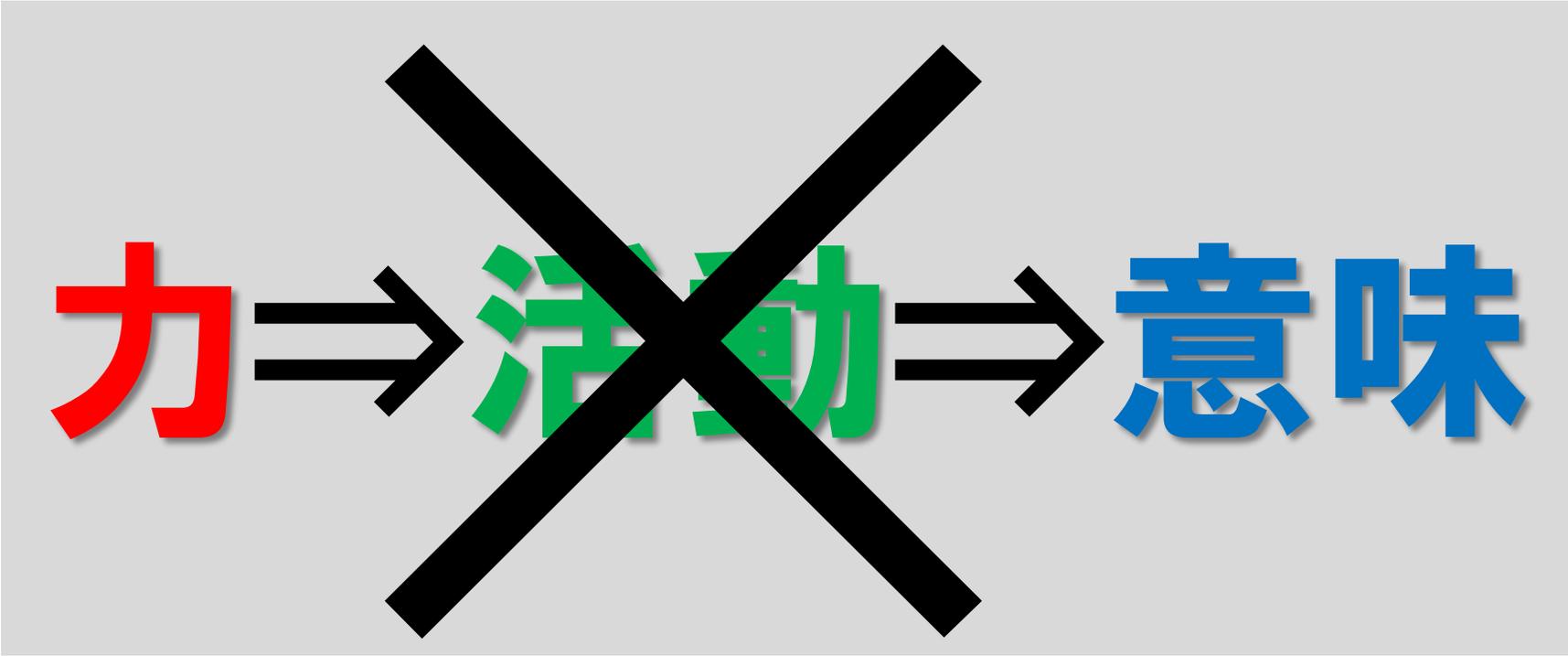


# 1. なぜいま「ゆたかな学び」なのか？

## (2) 発達・能力論の次元

発達心理学者の浜田寿美男さんが、「発達研究が進めば進むほど、子どもが生きにくくなるのはどうしてだろうか？」という主旨の問いかけをしたのは、1990年代半ばのことである（岡本・浜田 1995）。

🏠 「障害」や「不登校」が問題視されればされるほど、現象は個体能力論によって解釈・処理される。「**能力の共同性（社会性）**」（桜井 2021）、あるいは、「公共圏としての場」のありようは見落とされ、個人の「力」を伸ばすことによってしかウェルビーイングは実現しないという神話がまき散らされる。これは、ウェルビーイングの捉え方の基本的な誤りでもある。ただし、社会学者は、「存在承認」に軸足を移した議論を展開する傾向があるが、承認という言葉には「主体／客体」関係が暗黙裡に前提とされるため、むしろ浜田の次の対比の方を参照したい。





**意味⇒活動⇒力**

他人事≠自分事



# 1. なぜいま「ゆたかな学び」なのか？

## (3) 社会・実存論の次元

※『**負債論**』（酒井隆史監訳、高祖岩三郎・佐々木夏子訳）以文社、2016年（2011）

### ①「わかったつもりの経済学🌀」

**借りたお金をなぜ返さないといけないのか？**（⇨貧困国の借用分の3～4倍返済しても、元本はほとんど減らない＝「複利のミラクル」→教育ローンと酷似！）

👉 アダム・スミス以来、**経済学の教科書のウソ**（⇔人類学の豊富な事例）

＝「物々交換が行われていて、やがて貨幣がつけられた」（×）

物々交換は、そもそも再び会うことのないよそ者どうしの間でしか行われなかった！

👉 **鑄貨は公益を促進するためでなく、兵士への支払いのために発明された！**





# 1. なぜいま「ゆたかな学び」なのか？

## (3) 社会・実存論の次元

③どこにでもある「**いっしょに生きる**」ということ…

「**コミュニズム**」は魔術的ユートピアのようなものではないし、**生産手段の所有とも何の関係もない**。それは、いま現在のうちに存在しているなにかであり、程度の差こそあれ**あらゆる人間社会に存在するもの**。あらゆる社会システムは、**資本主義のような経済システムさえ、現に存在するコミュニズムの基盤のうえに築かれている**。

真剣になにごとかを達成することを考えているなら、**最も効率的な方法はあきらかに、**

**能力にしたがって任務を分配し、それを遂行するため必要なものを与え合うことで**

**ある**。(資本主義企業においてさえ…)  **基盤的コミュニズム** (baseline communism)

# 1. なぜいま「ゆたかな学び」なのか？

※『負債論』で教育の「いま」を問い直す  
～**能力主義**は「あたりまえ」か？～

経済社会の人類史に学ばないまま、  
無意識のうちに社会進化論や偏った  
経済学に支配されている研究群...

【例1】学力低下論・ふたこぶらぐダ現象→底上げのための「力のある学校」研究

⇔ 結局、学力を高めなければ救われない…ということなのでは？

【例2】家庭の社会・経済・文化的背景が学力・アスピレーションに影響している

⇔ ペアレントクラシーは、みんな気づいている。どんどん塾通いさせろということ？



# 1. なぜいま「ゆたかな学び」なのか？

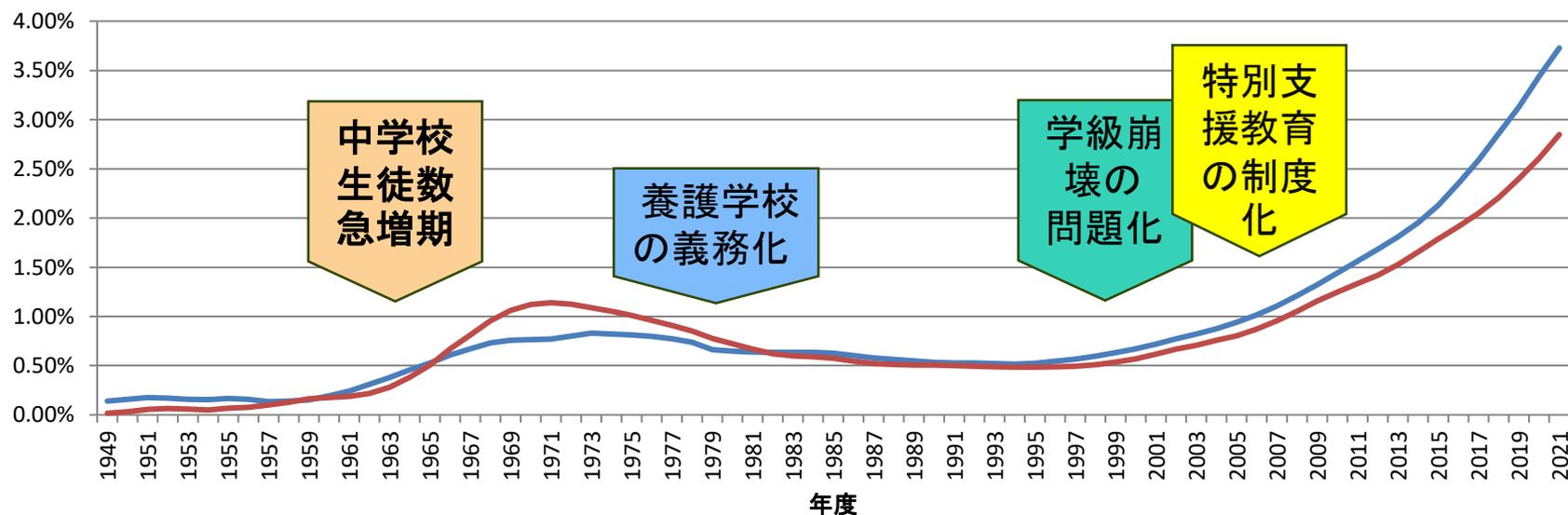
「ゆたかな学び」とは個人を排他的に分断するのではなく、「いっしょに生きながら、いっしょに学び合う、脱権力のための学び」としてとらえることができ、それが人々の例外なきウェルビーイングを担保するための崇高な営みにつながる要件となる。しかし、飼い馴らされた人々が多数を占める社会の大きな流れはその逆方向である場合も多い。断片化された知を習得するように追い立てられ、資質能力を身につけたかを評価され（自己チェックし）、その「自閉した世界」から外に出られなくなってしまふ。具体的な他者と出会うとき、「引きこもり」や「自閉症」などと簡単にカテゴリー化できないことに気づかされるはずである。

👉 このことの正しさは、具体的な実践を通してのみかろうじて示すことができる。  
その前に、困難を抱える現実の姿を簡潔に描き出してみたい。

## 2. 「ゆたかな学び」から遠ざかる教育の現実

### (1) 日本的インクルーシブ教育システムの限界

図1 特別支援学級在籍生徒比の推移



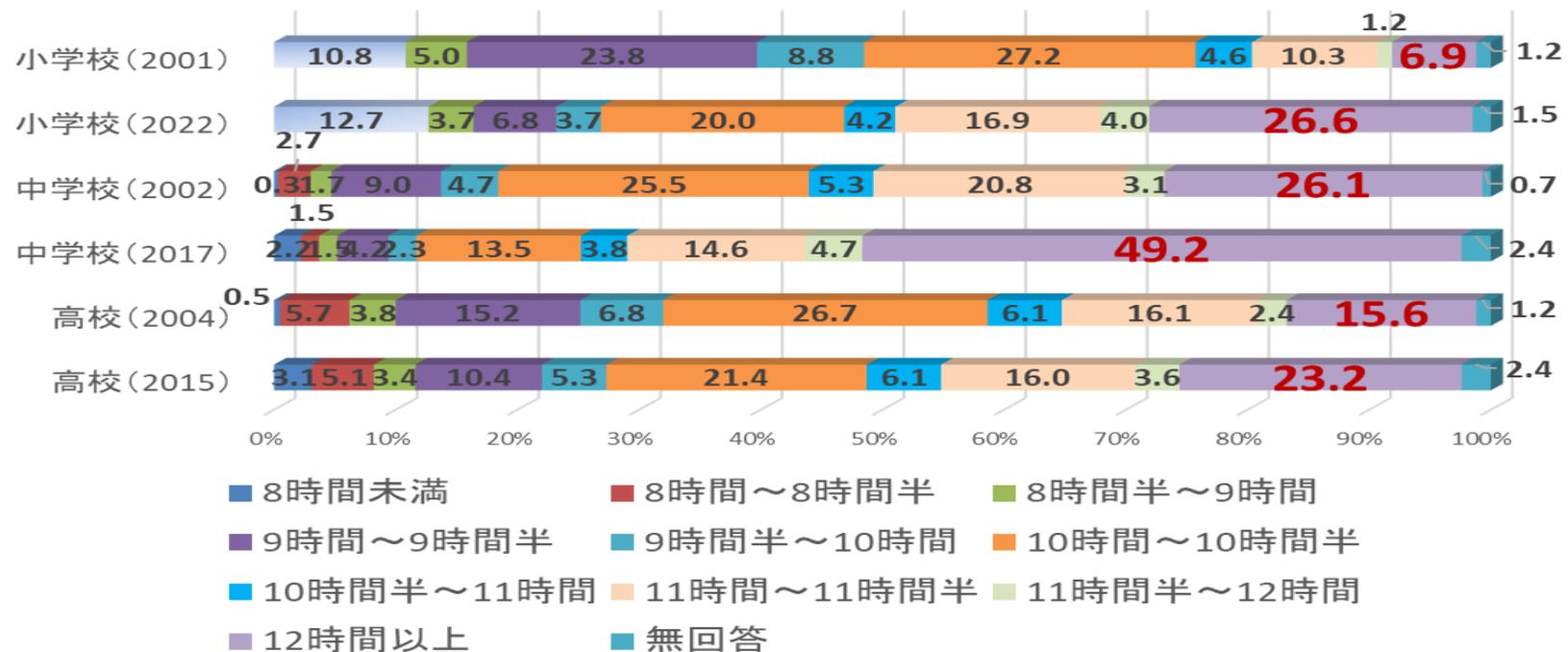
— 特別支援学級児童在籍率(小学校)  
— 特別支援学級生徒在籍率(中学校)

注) 文部科学省『特別支援教育資料』(令和3年度版)および『学校基本調査』(各年度版)より作成。

## 2. 「ゆたかな学び」から遠ざかる教育の現実

### (2) 教員の長時間労働と「教職から離れる若者たち」

図2 勤務時間の変化(校種別: %)



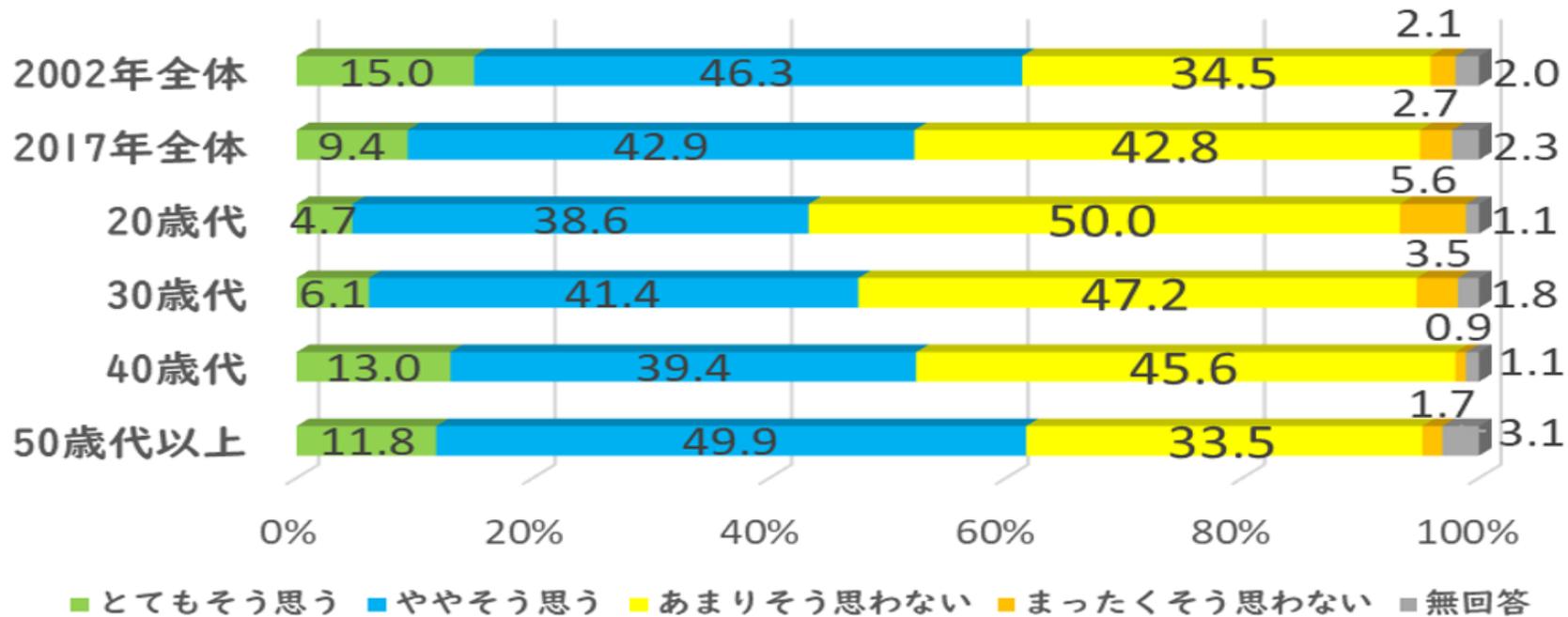
報告書「教職から離れる若者たち」  
はこちらです...



## 2. 「ゆたかな学び」から遠ざかる教育の現実

### (2) 多忙化の中で劣化する「教職の自律性」

図3 教員裁量に委ねる仕組みについての意識（2時点別・年齢層別）



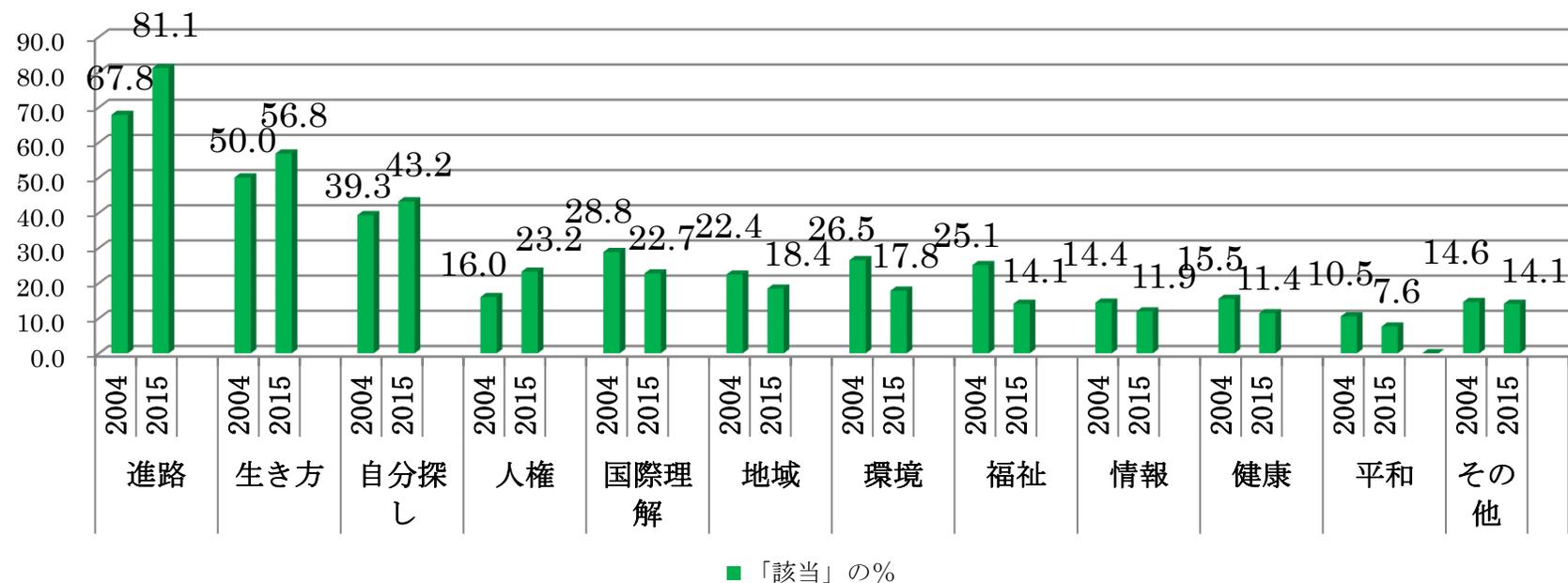
何を捨て、何を  
守るのかを  
決めるという  
こと？  
(価値選択の自由)

注) 「個々の教師を信頼して教師の自主性に任せる仕組みに変えるべきである」という項目への回答。  
全国公立中学校校長・教員調査(2002年・2017年実施)より。

## 2. 「ゆたかな学び」から遠ざかる教育の現実

### (3) 個人化／他者化する「総合的な学習の時間」？

図4 「総合的な学習の時間」の設定テーマ  
(1年次)

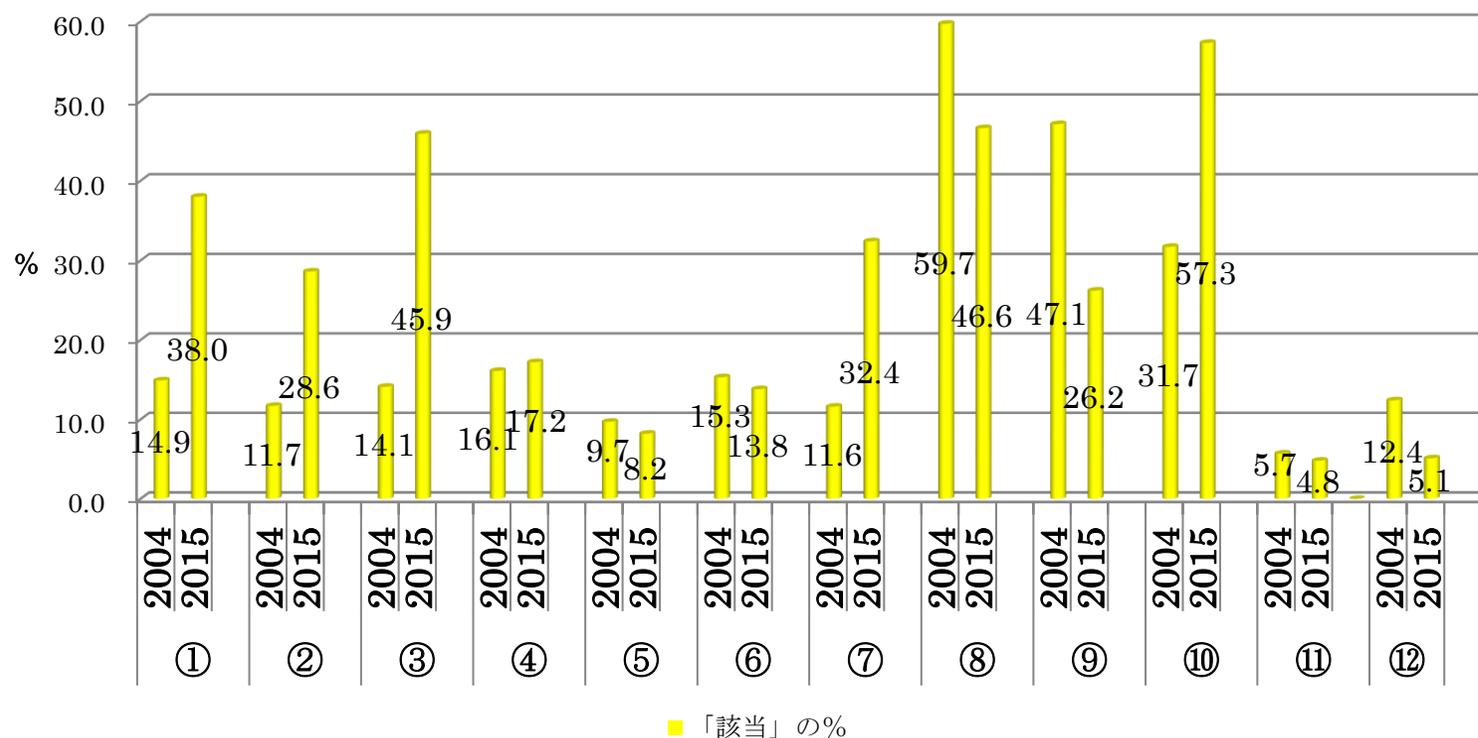


注) 全国高校校長・教員調査(2004年・2015年実施)より。

## 2. 「ゆたかな学び」から遠ざかる教育の現実

### (3) 個人化／他者化する「総合的な学習の時間」？

図5 「総合的な学習の時間」の影響内容評価の変化



- ①自分で考える力がついた
- ②自分で課題を発見する力がついた
- ③自分の考えを表現する力がついた
- ④教科の勉強が苦手な生徒に活躍の場ができた
- ⑤全般的に学習意欲が向上した
- ⑥生徒同士の信頼関係が強まった
- ⑦社会の厳しさを知ることができた
- ⑧社会のさまざまな課題を知ることができた
- ⑨人とつながる楽しさが学べた
- ⑩自分をみつめるよい機会になった
- ⑪教科の基礎学力が向上した
- ⑫その他



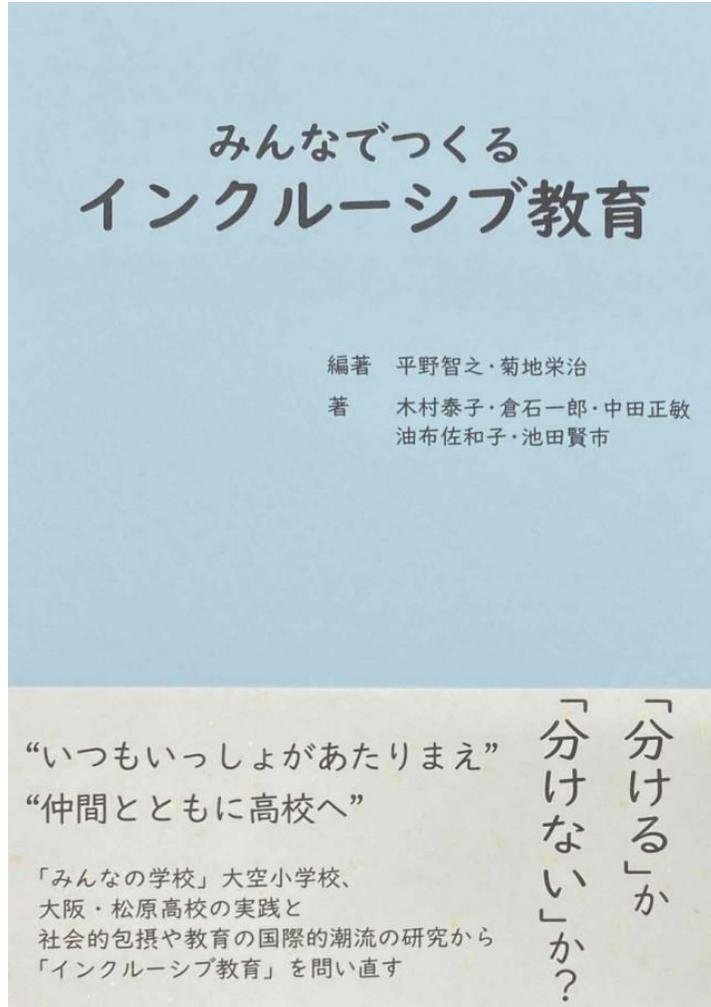
## 2. 「ゆたかな学び」から遠ざかる教育の現実

### 【小括】

- (1) 公教育費支出（対GDP比）が少ないこの国の教育は、次々に「あれもこれも…」の没主体的存在に陥らされており、とくに若年層において希望が見えづらくなっている。
- (2) 個体能力論などにもとづく能力主義の影響に、たとえば「特別支援学級」が急増している。
- (3) 高校教育においても、個人化／他者化に枠づかれています。この傾向はますます強まり、「交換」の道徳が出ていない。

内発的な実践事例から学ぶことが重要！

### 3. インクルーシブ教育の内発的実践に学ぶ



📖 実践事例の詳細については…

平野智之・菊地栄治編著、木村泰子・倉石一郎・中田正敏・油布佐和子  
・池田賢市著(2023)『みんなでつくるインクルーシブ教育』  
アドバンテージサーバー

ご関心がおありで  
したら、こちらへ。



時間の関係もありますので、以下は、当方が「要点！」と考えたところの指摘にとどめます。



### 3. インクルーシブ教育の内発的実践に学ぶ

#### (1) 大阪市立大空小学校

- ①「新設校&インクルーシブ教育の理念&木村校長のリーダーシップ」?
- ②「地域の学校とは?」という問いをベースに、ひとつひとつの出来事(子どもの事実)を真ん中に据えた対話の中から学び合った。→「何を?」
- ③木村泰子先生をはじめ、「いかにわかっていなかったか?」を学ぶことで、自分自身の「権力性」をそぎ落とし(教師という「殻」を脱ぎ捨て)、変えられていった。  
【例】ショウタさんとの出遇い…
- ④「熱心な無理解者」という誰しもが持っている罨に気づかされたこと。  
【例】カンタさんとの出遇い…



### 3. インクルーシブ教育の内発的実践に学ぶ

#### (1) 大阪市立大空小学校

- ⑤子どもの生活背景をよく知り、必要なときには保護者にも学んでもらうように対話をする。子どもの声を丁寧に聴き取っているからこそ…。  
【「『俺、プール入れられへん』ってぼやいてましたわ。『水着買ってもらわれへん』て」と管理作業員の山本義人さん←日常の情報共有】
- ⑥できないことは地域の人たちに応援していただき（例：パトレンジャー）、地域の子どもたちとして見守る中で大人たちも学んでいく。
- ⑦目標と手段を転倒させず、「ゆたかな学び」を可能にするのに必要なことを精選していく（管理職→行政の脱権力）。
- ⑧「弱さ」や「いたらなさ」を前提としつつ、大空流の「チーム学校」が支えになっている。



### 3. インクルーシブ教育の内発的実践に学ぶ

## (2) 大阪府立松原高等学校

- ① 適格者主義が支配していた時代に、地域（被差別部落）を含めた地元中学生の運動の結果として地域の高校として設立された。
- ② 「教育ママ的要求」を批判することで、現代の教育消費者主義という権力性を帯びた通念を解体した。
- ③ 3つの原則等によって、しんどい生徒を中心に据えて生徒たちの現実から教育実践を紡いでいく作風を教員同士で創り上げてきた。
- ④ (①～③も多くの新設校との違っているが) とくに「準高生」を受け入れることを通して、生徒との関係性を育てる中で「自分事」として実践し学び合ってきた。



### 3. インクルーシブ教育の内発的実践に学ぶ

#### (2) 大阪府立松原高等学校

- ⑤「授業の中で人権を保障してきたんか？」と問いかけ、自由選択講座を自ら創り上げていった（総合学科での学びにも結実）。
- ⑥相担制度と学年団という仕組みだけではなく、「失敗してもいい」という若手を育てていく（育ち合っていく）関係性＝文化が大事にされてきた。
- ⑦制度改革をしたたかに活用しながら、「いっしょに生き、学び合っていくこと」を具体的な社会づくりと切り離さないで実践されてきた。
- ⑧「いちばん大事なのは、『肩幅の狭い教員を育てる』ということだったことがわかりました…」易寿也さんが語る教員同士の関係性が育てられてきた。

### 3. インクルーシブ教育の内発的実践に学ぶ

【補足整理①】

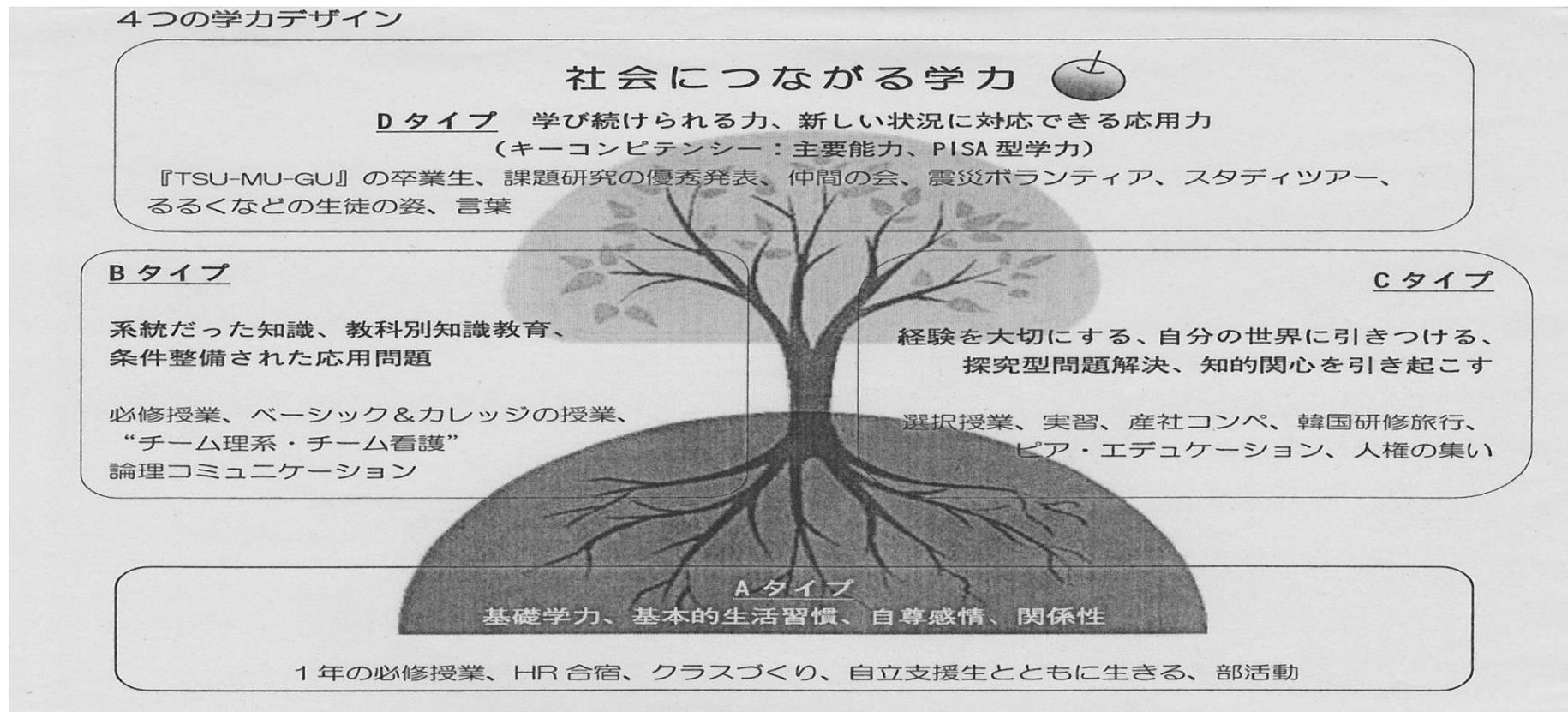
表1 「松高」のリスクとアクション

時代区分	項目	リスク（問題状況）	アクション（出来事）
1974年～1979年ごろ		「荒れ」と差別事件	準高生の受け入れ
1980年代末～1990年代初め		座学のしんどさの増幅	自由選択講座の創生
1990年代半ば		教員のしんどさの増幅	総合学科への転換
2000年代半ば		「総合＝自由」と規律問題	三つのワと優しいチカラ
2000年代後半		次世代教員育成問題	松高ハンドブック等の試み
2010年代前半		カリキュラムの再構造化	「論コミ」の導入

# 3. インクルーシブ教育の内発的実践に学ぶ

【補足整理②】

図6 優しいチカラの構造





### 3. インクルーシブ教育の内発的実践に学ぶ

👉ここで、ドキュメンタリー番組をほんの一瞬だけ…

関西テレビ（ザ・ドキュメント#113）

『夢への扉「課題研究」－先生を越えて進めー』

（2017/3/28放映）



## 4. まとめにかえてー大きな視点と足元からの試みー

### (1) 足元からの試み (両校の共通点5つを…)

- ①「子どもの事実」や「生徒の(しんどい)現実」を真ん中にすえて、「いっしょに生きていくこと」を大事にすること(職員室での会話…切実さと深い明るさ)。
- ②子どもも大人も、教師も生徒も地域住民(保護者も含む)も自らが「いかにわかっていないか」を軸に据えて、学び続けていること。
- ③教職員が人間の「弱さ」や「できなさ」を含めて多元的に認識し、子どもの声を丁寧に聴きつつ、子ども同士の関係性の中で育っていくように場づくりをすること。
- ④加えて、教職員同士が互いにできないことを補い合い支え合うことで、「しんどさを抱える状態」から少しでも解放されつつ、学びを深めていくこと。
- ⑤①～④のプロセスを促すように、外部社会の負の影響力を緩め(除去し)、プラスの資源をよりよく活用していること(ことばをつむぎ共有する…)。



## 4. まとめにかえてー大きな視点と足元からの試みー

### (2) 大きな視点 (気がつけばそれは「ゆたかな学び」だった…)

真にすこやかに「いっしょに生きていくこと」が可能になるのは、(人類史をたどっても日常をふりかえってみても)「弱さ」や「できなさ」や「わからなさ」を抱えているのが人間であるという原事実に戻り、(人間についても社会についても)よくわかろうとし、こびりついた権力性をそぎ落とすことを通して、「優しい社会」への一歩をそれぞれの地点で試みる。その中で気がついてみたらその学びの過程が「ゆたかな学び」だったということかもしれない。インクルーシブ教育とは〇〇教育のひとつではなく、それらをも貫き通す人々の見識と努力の積み重ねにほかならない。

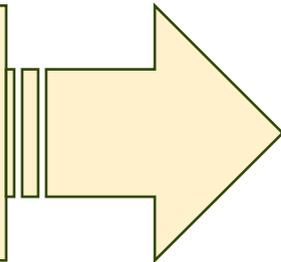


## 4. まとめにかえてー大きな視点と足元からの試みー

### (3) 「ゆたかな学び」を阻むものを和らげていく試み…

「教員の長時間勤務に歯止めをかけ、豊かな学校教育を実現するための全国署名」

よろしければ  
こちらをポチっと！



# 主な参考文献

- 池田賢市他（2020）『能力2040－AI時代に人間する－』太田出版
- 今村仁司（1994）『近代性の構造』講談社選書メチエ
- 易 寿也（2009）「人権教育をベースにした総合的な知の実践」『キャリア・ガイダンス』2009年12月号（No.29）
- 菊地栄治（2012）『希望をつむぐ高校』岩波書店
- 同 （2016a）「『質保証』問題と学びの構造転換－高校教育研究による再構築－」『教育社会学研究』98巻、東洋館出版社
- 同 （2016b）「高校教育のポリティクス－〈近代〉と向き合うもうひとつの物語－」小玉重夫編『学校のポリティクス』岩波書店
- 同 （2020）『他人事≒自分事－教育と社会の根本課題を捉え直す－』東信堂
- 同 （2021）『「縮小期」後期の高校教育改革を問い直す－〈多元的生成モデル〉の可能性－』（科学研究費成果報告書）
- D.グレーバー（2016）『負債論－貨幣と暴力の5000年－』（酒井隆史・高祖岩三郎・佐々木夏子訳）以文社
- 同 （2020）『ブルシット・ジョブクソどうでもいい仕事の理論－』（酒井隆史・芳賀達彦・森田和樹訳）岩波書店
- 国立教育政策研究所編（2019）『教員環境の国際比較 OECD国際教員指導環境調査（TALIS）二〇一八報告書』ぎょうせい
- 斎藤幸平（2020）『人新世の「資本論」』集英社新書
- 桜井智恵子（2021）『教育は社会をどう変えたのか－個人化をもたらすリベラリズムの暴カー』明石書店
- 澤地久枝・中村 哲（2010）『人は愛するに足り、真心は信ずるに足る－アフガンとの約束－』岩波書店
- 滝谷美佐保編（2017）『滝沢克己・最晩年に語ったこと－人は何を支えにして生きるか－』中川書店
- 中央教育審議会（2021）「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」2021年4月22日
- 岡本夏木・浜田寿美男（1995）『発達心理学入門』岩波書店
- 平野智之・菊地栄治編著、木村泰子・倉石一郎・中田正敏・油布佐和子・池田賢市著(2023)『みんなでつくるインクルーシブ教育』アドバンテージサーバー
- S.ピンカー（2019）『21世紀の啓蒙（上）（下）』（橘明美・坂田雪子訳）草思社
- ブレイディみかこ（2021）「わたしのコーリング」『新潮』2021年1月号
- 松嶋 健（2014）『プシコナウティカーイタリア精神医療の人類学－』世界思想社
- 水野和夫（2014）『資本主義の終焉と歴史の危機』集英社新書
- 吉野源三郎『君たちはどう生きるか』岩波文庫



ご清聴、ありがとう  
ございましたm(\_\_)m



ご意見ご用命はこちらまで...✉ [emkikulove@waseda.jp](mailto:emkikulove@waseda.jp)